



世界に希望を生み出そう

2023-24 国際ロータリーのテーマ  
会長 ゴードン R. マッキナリー

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ



# 会報

2023 ▶ 2024  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長目標

留萌に希望を生み出そう ~CREATE HOPE in the RUMOI~

会長/武田 佳彦 幹事/西原 正幸

## プログラム

- 本日  
会員卓話「ロータリーの会員増強と公共イメージ」  
燕 会員増強委員長
- 次週予定  
会員卓話「我が生き立ち」 川村 裕之 会員

配偶者誕生日  
對馬 真澄

No. 2966 第7回 8月23日

出席報告

前例会

会員総数	25名
出免会員	5名
出免出席	3名
基準会員出席	16名
出席率	69.56%

例会/毎週水曜 12:15~13:15

## 🖋️ 会長報告 .....

- 7月29日、無事吞涛祭りを終えることが出来ました。皆様のご協力に感謝致します。来年は満を持して燕エレクトのお囃子が見れると思います。期待しましょう。
- 7月26日例会後に臨時理事会を開催、前年度の決算を承認致しました。申橋会長、青山幹事、関野会計、大変お疲れ様でした。
- 8月19日13時より、留萌市平和式典が開催されます。私が参加致します。
- 本日渡部会員の奥様がお見えになり、「主人が大変お世話になりました」ということで高額ニコニコBOXを戴きました。

## 📁 幹事報告 .....

- 芦別ロータリークラブより、会報を受領しました。
- 羽幌ロータリークラブ、深川ロータリークラブ、砂川ロータリークラブより、8月例会案内を受領しました。
- 今年度の地区大会の案内を受領。10月15日小樽市にて開催されます。後ほど回覧致します。記念ゴルフ大会も開催されますので、出席成される方は、来週末位に申し込みください。

## 👥 委員会報告 .....

奉仕プロジェクト委員会 谷口委員長  
会長報告でもありましたが、あんどんを無事に、そして安全に終わることが出来ました。準

## 第6回 8月9日(水) 天候/晴

備作業から皆様のご協力により、すべて順調に終えることが出来ました。来年も楽しいあんどんが出来ることを期待して、皆様に感謝申し上げます。

### 地区国際奉仕委員会 燕地区委員

先日、地区の国際奉仕委員会の会合に参加して参りました。今年度はぜひ新しい会員さんにタイの検証ツアーに参加をして頂きたいとのお話がありました。ぜひ皆さんもご検討のほど、よろしくお願い致します。



### 3分間情報

#### クラブ運営委員会 辻本委員長

##### 「規定審議会／決議審議会」

3年に1度開かれる規定審議会(COL)は、ロータリーの管理運営プロセスの重要な部分です。決議審議会(COR)は毎年、電子的コミュニケーションを通じて決議案を審議されます。採択された決議案は、後日、理事会あるいは財団管理委員会で検討されます。

##### ＝セッションの目的＝

理事会が国際ロータリーの方針を決定する一方、規定審議会ではロータリークラブが組織の運営に関して発言する機会が与えられます。

全クラブと地区には審議会へ立法案を提出する権利があり、審議会の決議がロータリーの最も重要な活動に影響を与えることもあります。1989年規定審議会の決議によってロータリーに初めて女性が入会し、1986年審議会の決議からはポリオ・プラスが誕生しました。参加者はオープンマインドで、ロータリーにとって何が一番ベストなのかを考えることが求められています。



### ニコニコBOX

- 渡辺副市長、本日はよろしくお願い致します。  
武田会長
- 渡辺副市長、本日の卓話楽しみです。  
西原幹事

- 渡辺副市長、本日はありがとうございます。

田中(卓)SAA

- 渡辺副市長、ようこそ留萌ロータリークラブへ。本日の卓話楽しみにしています。

燕エレクト

- 渡辺副市長、本日はよろしくお願い致します。

青山副会長

- 渡辺副市長、本日はよろしくお願い致します。

辻本クラブ運営委員長

- 渡辺副市長、卓話宜しく申し上げます。

谷口奉仕プロジェクト委員長

- 渡辺副市長、ようこそ留萌クラブへ。

関野SAA補佐

- 渡辺副市長、お暑い中お出で下さりありがとうございます。

高橋親睦活動委員長

- 暑いです。暑さに負けずに頑張りましょう。

鈴木会員

- 留萌ロータリークラブの皆様へ。

渡部元会員夫人

前回 142,500円

今回 63,000円

累計 205,500円



### プログラム

#### 来賓卓話「留萌市が進める地域戦略について」

留萌市副市長 渡辺 稔之様



地域戦略などと言っていますが、平たく言えば留萌市が進める、この街を元気にする取り組みという事を今日はお話をさせていただきます。

私が中西市長に招かれてから、もう3年半が経ちます。街が元気になるという事は、街に変化を起こす事だと、ずっと私は思っております。そして街を元気にするっていう事は、その変化を受け止めるという風に私は認識をしていますし、今までもそのような取り組みがこの“元気にする”という

キーワードだとしたら、そのように取り組んで参りました。体もそうで、体が元気になるという事は、私の場合はお酒を止めるという事になります。これは大きな変化が起こることになりますし、体を元気にすると言うのであれば、禁酒を徹底する事になるんだろなと思います。このような変化を起こさない、街も体もなかなか力強く元気にならないと思います。

今、留萌市の抱える最大の課題と言うのは人口減少だと思っております。毎年500人以上の人が減っていくという事は由々しき事態であります。やはり上には上がいまして、先日小樽市長とお話をさせて頂きましたが、小樽市は毎年2000人が街を出ていくという事で、地方都市はどんどん人口が減少していく状況になっております。人口が減って高齢者が増えてと言うのはやる事が増えていく一方で、それをやる人もいなくなってしまうという事なのです。そしてやるだけの予算がないという事が起きると言う事です。ではどうすれば良いか、やはり残されたものが知恵を絞るしかないと思われれます。今回の人口減少は今までの人口減少と少し違い、各地方都市すべてが人口減少に悩まされている状況です。今までは留萌市で人口が減っても、日本の人口は増えていきましたが、現在は日本の国自体が人口減少に悩まされて、それに立ち向かっていかなければならなくなっており、これからは人口減少をおさえて交流人口を増やしていかなければなりません。稼げる留萌の基盤づくりと言うのが重要になってくるのだと思っております。

稼げる留萌というのは、中西市長の選挙公約でありまして、留萌で商売をして稼げる街を早急に作っていくのが重要だろうと思っております。もちろん市民の暮らしを守っていく事は当然です。市民の要望にも応えていきたいと思っております。しかし今までの留萌市は無い袖は振れない状況でしたが、現在の財政は大変改善して来ています。市の職員も努力をし、市民も我慢してくれた成果だと思います。そして何よりもこのふるさと納税が3年間で大幅な上昇を示しており、私が留萌に来た時には約4800万円

位でしたが、現在では10億円を超えていて、今年は去年の倍のふるさと納税が集まりました。これらを伸ばす事により、市民の要望や我慢してきた市民に意見にしっかり対応していきたいと考えています。それと同時に稼げる留萌の基盤づくりを進めて行かない事には、焼け石に水みたいになってしまわないようにしなければいけないと思っております。

今まで人口減少を解決していくポイントは、次の3つだと定めて、今まで仕事を進めて参りました。

一つ目は、地域産業・地元企業と留萌に進出してくる企業を応援支援する仕組みを構築したいという事で、今までずっと後生大事に持っていた中小企業支援条例などを廃止して、新しい条例を作りました。地元企業応援基本条例と企業進出基本条例の2本を新たに作りました。留萌市の今までの条例は、条例の中にこう言うモノを応援しますよとか、これだけの金額を出しますよと言う事が条例の中に書かれていたのですが、そこに書かれていれば書かれた事しかできない。目まぐるしく変わる社会で対応できない事があります。まずは国や団体が作る事業に乗かって下さい。そうすればそれらの予算を市が応援しますよというやり方に変えました。国や団体の事業は非常に良く出来て、色々な取り組みが出来るようになっていきます。そうすると皆さんの負担する部分はうちの条例に基づいて出して上乗せ致しますよ、と皆さんの手持ちが少しでも残るようにと、地元の企業や留萌で商売を始める企業を応援出来る仕組みを考えています。

二つ目は、新たなビジネス新しい産業を創出できる企業を誘致して、核・拠点を形成させるという取り組み。それと地域振興に於いて最も重要な、市民が自分の街を誇らしく思うようにする。「留萌にはこう言うモノがあってこういう良い所がある」と言うように、もっと留萌に自信をもって政策を打ち立てたいと考えて進めて参りました。これらをやる事によって、人口減少の抑制と新たな関係人口を増やしていきたいと水面下で進めて参りました。何故水面下

## 第6回 8月9日(水) 天候/晴

なのかと言うと、当然他の市町村でも企業誘致などは狙っているものですから、企業との交渉も職員を連れて行かないで単独で行動致しました。今がチャンスで、この5つの核・拠点形成を進めようとしていますが、新たな産業と新たなビジネスを作り出す事が人口減少を抑制し、さらに発展を続けていける重要な所だろうと考えています。この取り組みには基本的な考え方が四つあって、一つは留萌の自然条件だとか資源資産を有効に活用していきたいという考え方です。今ある物をしっかりと使っていくと言う事が重要です。そして民間企業の活力を利用する事。民間団体の勢いをしっかりと活用していきたいと思っています。三つ目はチャンスとタイミングを逃さないという事で、今これからやろうとしている事は今がチャンスで、今がタイミングで、これを逃すと全部吹き飛ぶと考えています。この後、もう少し議論しますなどと言っている余裕すらないと考えます。私は常に緊張感を持って進めて参りました。常に知恵を絞って出来るだけ財政に負担をかけないような取り組みにしようという考え方で取り組みを進めて参りました。

それではこの核・拠点とは何かと言うと、今話題になっているモンベル誘致によるアウトドアビレッジ構想。それと食料安全保障の拠点づくりという事で、今留萌港に小麦の集出荷設備を作ろうと考えています。留萌市では殆ど小麦は作ってはおりませんが、うちの背後圏には多くの小麦が収穫されます。上川・北空知から採れるこれらの資産を使って、留萌港を利用して農産物の出荷施設として活用していく。ただ、現在資材が高騰していてこのタイミングで建てていいか議会で検討しています。今小麦だけではなく、留萌港に関わる行政機関もたくさんありますので、港の整備や新たな取り組みなどをやってもらう為にも留萌港を有効に活用していかなければならないと考えています。高規格道路も上川空知から小麦が留萌市に運ばれて来ると、当然道路の強靱化が計られ、公共事業も行われ新たな誘致も考えられます。今がチャンスと言っているのは、今盛んに国土交通省では食

料安全保障という言葉を使っています。この小麦の施設はほとんどが太平洋側に集中しています。もちろん石狩などにもありますが、太平洋側、苫小牧や釧路に集中しております。30年の間に大地震がくるといわれており、そうなると太平洋側は壊滅的打撃を受ける心配を国も考えています。良い事に留萌は地震がほとんどありません。それと苫小牧や釧路港へ持って行くとなると、働き方改革の問題で2人の運転手が必要になります。ホクレンは働き方改革がなければ留萌港などを考えなかったのですが、もし留萌港が出来たら3万6000トンから4万トンの小麦を留萌に回すと担保しています。今までも留萌港には老朽化した小麦の施設がありまして、建て替える計画は常にあったのですが、農協が合併し留萌管内の小麦も出荷する施設を考えなければならぬので、今がチャンスとなっています。

もう一つの核づくりは、子育て支援の核づくりで学校給食についてです。それと魅力的な教育環境づくりで、留萌高校を頂点とした教育環境を整備していこうと、2021年から1300万円ほどを留萌高校へ入れております。小中学校は当然行っておりますが、大学受験では国公立大学に24名の合格者が出て、私立大学合格者が94名か97名の子供たちが受かっております。河合塾との連携やA Iアプリの搭載タブレットの配付などにより成果が上がってきたかなと考えています。スポーツなどにも力を入れていて、留萌高校の卓球部で卓球の街作りという事で、読売新聞にも掲載されていましたが、留萌高校卓球部、卓球で育てると大きなタイトルで掲載されてきました。今、彼・彼女たちの活躍が街にいると分からないのですが、全道全国的にも有名になって、スポーツ報知や新聞などに取り上げられていて、留萌のPRを彼女たちにやらしてもらったら良いのではとも思っています。卓球に限らず、野球もサッカーなどにも力を入れていこうと考えています。そのためにも、ふるさと納税を頑張っていこうと考えています。

最後が再生可能エネルギーで、中西市政の目玉です。色々な事業を考えていますが、最後に

はこの再生可能エネルギーに繋がるようになっていっています。モンベルも学校給食も最終的に再生可能エネルギーに話が繋がっていきます。先ほど言っていた子育て支援と食品制度の部分、学校給食について少しお話をさせていただきます。実は私が着任してから一番最初に言われた事は、学校給食の民間委託化を進めてほしいと言われました。それは何故かと言いますと、平成20年の行財政推進会議から民間委託を行うようにと答申を受けております。ただし、給食センター諮問委員会は老朽化した調理機器などを更新をまず優先して、民営化は更新した後に検討するという答申があって、私が着任した時にはすでに更新が終っており、次は民営化という流れになっていました。今、民間委託は大もめにもめています。私もこのままの民間委託ではなく、もう一つ二つ工夫が必要ではないかと思っておりました。最初に地元の企業で団体などを作ったのならば、地元企業への支援という事で、そこへ委託をかけようかと検討しましたが、それがなかなかうまく行かないという事で、じゃあ学校給食の課題とは何かを考え、このまま行くと学校給食センター施設の老朽化があり、約2億円位かけて設備を更新しなければならぬのですが、やがて十数年後には約15億円位かけて新設しなければなりません。この老朽化と遊休化という問題がありまして、給食センターは年間160日以上稼働していません。言ってみれば低利用の公共施設となっています。土日・祝日、夏休み、冬休み、春休みが稼働していませんので、これを何とかしたいなと言う意見があります。160日も使っていない。ましてや昔は学校給食センターで1日約6000食作っていたが、現在は約2000食作れる設備を考えています。実際は先生を入れて1200食しか作っておりません。残りの800食を作る能力がありますが、活かされていないのが現状です。三番目は安定的な調理体制の確保という事で、現在15名の調理員の枠を持っていますが、実際は8名しか調理員がおりません。昔は3時間でも働くといい奥さんたちもおりましたが、現在は160日も働かない時間があり賃金が安すぎると言う問題があり

ます。100万・130万という問題もありましたが、やはり賃金の確保が問題で、調理員の確保が問題になっております。それとアレルギーの問題があって、現在は基本的にはアレルギーの食材は基本的に除く事になっており、小中学生の中に10数パーセントもアレルギーの子供がおり、対応に苦慮しております。子供の数が少なくなると食材の量が多くなる必要なくなり、業者に対しての支払いが少なくなるなど色々な問題が起って来ています。また、幼稚園や高校生の子供を持つ親は弁当作りに追われ、昔は親が作っていたが、現在は共働き世帯が殆どで、弁当作りが負担となっている事も確かです。これらを給食で賄おうとすると、学校給食センターにやれる民間の人を入れる。どうせやるなら民間委託で、お金の都合がつけば簡単に出来るしまうのです。例えば留萌市の外部には色々な業者がおり、外部委託すれば財政負担が少なくて済む方向に行きます。色々な課題を解決するには給食事業をやっている民間企業を留萌に誘致するという事で、交渉を開始する事になりました。それで昨年10月に新聞にドカンと記事が載りましたが、あくまでも新聞報道での事ですが、コープさっぽろが留萌市の給食センターを買収してそこで学校給食を始めると出ましたが、このような話は全国初の取り組みになるので新聞社ではこれらを取材して新聞に掲載するのですが、実際我々から北海道新聞には情報は流れておらず、誰が情報を流したのかと噂が流れ教育委員からは私たちに情報は全くなかったとお怒りの連絡を受けました。新聞発表通りであれば、コープさっぽろの子会社でコープフーズという会社で、もう1社入ってきたいという会社がありました。一番重要なのは留萌市に事業所を構えてくれるのが一番で、給食センターを売却して、そのお金を国に返却して自由に給食センターを利用できる体制を取ろうという事で、365日自由に給食を作り、例えば夏休み、冬休み、春休みなど、両親が仕事をしていても児童館などで給食が食べられる仕組みを作ったり、幼稚園や高校生に対して自宅へ給食を配達したりと色々な事が出来るようにするには、やはり

## 第6回 8月9日(水) 天候/晴

国へ補助金を返してしまって自由に給食センターを利用できるようにして、高齢者も自由に食事を作る事が出来なくなるので、そんな時、給食センターが配達してくれるシステムがあれば便利になります。留萌の給食が市内で作っている食材で美味しく食べられる。それが給食センターの取り組みです。保護者のお弁当負担や、アレルギー対応給食など全て民間事業者がする事になっています。そのようなプロポーザルをかけようと思っています。給食費を集めるのも業者に任せる事になりますが、それには多少問題が残ります。また、学校給食は教育委員会が責任をもってやるという意見で、色々な意見を聞きましようという事で、給食センター運営委員会というものがある中でその中には保護者やPTAの方だ入っており、教職員の方も入っています。そこに諮問して意見を聞きましようと思案したのですが、教育委員の4名の方から3対1で給食センター運営委員会に諮問するのを却下されました。学校給食を改革するという事は企業誘致から始まっています。留萌市で新たな給食ビジネスを始めるにあたり、留萌市以外の小中学校の給食もここでやる事になっています。コープさっぽろだと全部自分でやってしまうからと言われますが、留萌市が一番最初で今まで通り地元企業に同じように契約をさせるという事で話を進めています。破格の契約を結ぶチャンスであると言ってもよいでしょう。もう一つ民間に委託すると言っていますが、学校給食法にちゃんと残るようにしています。学校給食について市役所はしっかり関与しますよと言っています。もしかしたら学校給食の無償化が図られる可能性があり、完全にスクールランチみたいな言い方にしてしまいますと、無償化の対象にならないかもしないで、それで学校給食法に残ろうと考えています。

次のモンベルについてですが、皆さん41億円という金額が飛んで回っていますが、やるのは12億2千万円かける拠点施設で、直売所やフードコートなどの作ると言っていますが、実際は1.8億から3億円になっています。よくそんなに金を使ってどうするんだとよく言われますが、

年間44.6万人も入ると試算されている道の駅です。それだけ街に流れて来る。モンベルが出来るとその核ができるので、それを取り巻く企業が留萌に入ってきます。直売場を作りたいとかちょっとした飲食店を作りたいとか、名乗りをあげている企業が多くあります。モンベルに人を引き付けるだけの力があるという事で、もし万が一モンベルが引き上げて行ったらどうするんだと言われる事が良くあります。モンベルも大阪商人ですので、1年かけて留萌を調査していて、色々な事をつぶさに見ています。学校給食もそうですし、モンベルもそうなんですが、洋上風力の事も聞かれます。この洋上風力はやと漁協との話し合いがつきまして、国の洋上風力の導入可能性の同意を頂いたので国に申請して調査をやらうと思っていますが、これについては大きな前進で、今まで漁協の壁がどうしても乗り越えられなかったのですが、今回は大きな一歩となりました。

今回、一定の準備段階が進んでいる地域として指定を受けようと思進めています。これが中西市政のトリになるのだろうと考えています。ただ、これが出来上がるのはまだ10年後～20年後という長いスパンになりますが、今準備しておかないとここから外れてしまったら、送電網も留萌にまで来ませんし、そうなると石狩で終わりとなってしまいます。これから民間活力をどんどん入れて、行政は行政、民間は民間だけでなく、一体となって進めて行ければと考えています。

少し時間がオーバーしてしまいましたが、ご清聴ありがとうございました。